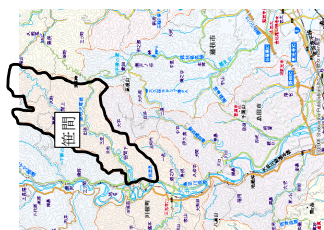


モデル事業名	空き家、遊休農地の利用等地域資源を生かした限界集落からの脱却
活動団体名	特定非営利活動法人 森づくりS川根NPO
ホームページ	<a href="http://www.sasama-npo.jp/">http://www.sasama-npo.jp/</a>
所属/ 担当者名	特定非営利活動法人 森づくりS川根NPO 担当理事 北島 享
連絡先	電話番号 0547-54-0661、Eメールアドレス (koryu-c-sasama@cy.tnc.ne.jp )
活動地域	静岡県島田市川根笹間地区

### ● 活動地域の概要

笹間地区は島田市の北部にあり、大井川の支流である笹間川に沿った10集落で構成されている。人口は現在約540人、世帯数約180世帯であり、10年前と比較すると、人口で約25%、世帯数で約13%減少している。特に高齢化率は50%に達する直前であり、昨年の出生者はなく、少子・高齢化が顕著になっている。特に、基幹産業である林業、茶業は大変厳しい状況にあり、加えて平成19年4月には笹間小学校・笹間中学校が同時に廃校になり、地域としての活力や、まちづくりへの意欲が低下してきている



【位置図】



【空家の増加】



【耕作放棄地の増加 耕作茶園と荒廃茶園】

### ● 活動地域の課題

昨年度実施したアンケート調査の結果を踏まえた具体的な取組内容の検討が必要である。

- ①空き家は2次調査結果を受け、所有者の承諾をえられる空き家を借りた社会実験を行い、田舎体験としての受け皿となる課題やさまざまな体験のプログラムの試行が必要である。
- ②田舎体験を支える指導的な地元の達人のリストアップと活動内容が必要である。
- ③伝統的な「食」の開発課題については、昨年の成果が良く、参加者全員が満足したことを受け、伝統的な食への商品化に向けた試作の取り組みが必要となった。
- ④体験型交流人口、情報提供への対応が不足するため、近隣の関連施設（やまゆり、ヤマメの里、山の家、さくら茶屋、大井川鉄道、笹間温泉）との連携や中山間でつながる地域等との連携を図ることが必要である。

### ● 活動の内容

#### ・平成20年度

- ①空き家、休遊荒廃農地の実態調査の実施
- ②行事・伝統文化の調査の実施
- ③地区住民・他出者意向アンケート調査の実施及びパリ大学院生との意見交換の活動状況
- ④北杜市への先進地視察調査による活動体制やしぐみを学ぶ
- ⑤モニターツアー活動状況
- ⑥市長を交えたフォーラム活動による活動の認識

#### ・平成21年度

- ①田舎暮らし体験等体験ツアー空き家を借りて、生活体験や農郷体験を行う
- ②体験活動の指導者等の養成目的とした、ささまの達人（仮称）を掘り起こし、育成を行う、
- ③田舎の伝統的な「食」の掘り起こしと、商品化に向けた食の開発を行う
- ④廃校となり、未利用の中学校の利用促進するための検討及び提案を行う
- ⑤近隣地域との広域的連携について、組織を作り検討する

## ● 活動の成果

### ・平成20年度

- ①空き家、休遊荒廃農地の実態調査の実施  
空家2次調査15件の中から、実験的に活用しても良いとの承諾を得て、21年度につなげることができた。休遊荒廃農地についても、所有者の「荒廃させてはいけない」という意識を呼び起こした。
- ②行事・伝統文化の調査の実施  
地元住民も知らない地域資源も存在することが再確認され、体験プログラム等でも使用可能なテーマを発見できた（竹ボタル、竹飯づくり、倒木体験など）また、伝統の笹間神楽も外国人女性が保存会に入会し、継承を始めた
- ③地区住民・他出者意向アンケート調査の実施及びパリ大学院生との意見交換の活動状況  
当地区を出たアンケート回答者から地域のサポーターとしての意識が高まった  
パリ大学院生がまとめた笹間活性化の提案が届いた
- ④北杜市への先進地視察調査による活動体制やしぐみを学ぶ  
体験活動の年間を通じたプログラム化や仕組みが参考となり、農家体験プログラムとしてビジネスとなることが確認でき、次年時に社会実験することにつながった。
- ⑤モニターツアー活動状況  
人とのつながり、体験プログラムの課題も整理できた。子どものさんかを含め反響が大きかった。
- ⑥市長を交えたフォーラム活動による活動の認識  
島田市との合併や市長から直接話を聞けるなど地域住民の意識が高まった。
- ⑦交流人口の受け皿として、企業組合「くれば」を3月に設立した。



フォーラムでの意見交換

### ・平成21年度

- ①田舎暮らし体験等体験ツアー空き家を借りて、生活体験や農郷体験を行う  
近隣企業ナカダ産業との「1社1村しずおか運動」の提携を行い、農業体験等を行った。  
公募による田舎暮らし体験を行い、2組の家族から「また来たい」「情報発信」という意見をいただく。
- ②体験活動の指導者等の養成目的とした、ささまの達人（仮称）を掘り起こし、育成を行う、リスト作成中
- ③田舎の伝統的な「食」の掘り起こしと、商品化に向けた食の開発を行う  
16品試作・試食会を行いそのうち4品が山村都市交流センターささまでの食事メニューに決定
- ④廃校となり、未利用の中学校の利用促進するための検討及び提案を行う  
現在案を作成中であり、「天空の回廊」「コミュニティ・アートセンターささま（仮称）」として内容を詰めている  
体験プログラムの一環として「陶芸ワークショップ」を開催した。
- ⑤近隣地域との広域的連携について  
近隣のやまゆり、ヤマメの里、山の家が発起人となり組織化し、内容を検討中



田舎暮らし記事

## ● 今後の課題及び展望

### ・課題

- ①体験プログラムの充実と適正な人材配置、ビジネスとしてのしぐみづくり
- ②食メニューのレシピ化や地元の家庭や若い主婦でも作れるような食育指導が必要
- ③旧中学校の提案の合意形成と行政支援が必要
- ④近隣とのマップ作成や活動連携、施設連携の中身の検討が必要

### ・展望

新聞や地元FMによる情報発信が徐々に効果をあげ、認知度も高まり、笹間地区に関心を持つ人もでてきている。こうした中で、活動の中心となる「NPO森づくりS川根NPO」や「企業組合くれば」の組織活動から住民活動、近隣施設との活動連携などへの広がることを検討し、交流人口を拡大しつつ、地域全体が潤うことを目指したい。  
山村都市交流センターささまの指定管理者として「企業組合くれば」が内定するなど活動場所も定まり、活動の継続性や活動の質の向上、人材育成などさらなる課題を検討していきたい。